連携協働活動チェックシート

	チェック項目	✓
①	地域連携協働活動の全体計画が作成されている。	
②	教職員が地域連携協働活動の意義や内容について共通理解が図られている。	
③	教職員のニーズを把握し、年間活動計画が作成されている。	
④	地域コーディネーターとの話し合いや情報共有がなされている。	
⑤	チーム体制や活動環境（ボランティア室等）が整備されている。	
⑥	明確な目標のもと効果的な学習方法が展開されている。	
⑦	活動を評価し、その成果を確認し改善を加えている。	
⑧	活動の状況が地域や保護者に発信されている。	
⑨	計画書や報告書、人材リスト等、次年度につながる資料が累積されている。	
⑩	活動を通し、めざす子ども像に近づき地域住民のつながりが生まれている。	

問い合わせ・相談先

○福島県教育庁社会教育課　TEL　024-521-7799
○県北教育事務所総務社会教育課　TEL　024-521-2814
○県中教育事務所総務社会教育課　TEL　024-935-1488
○県南教育事務所総務社会教育課　TEL　0248-23-1666
○会津教育事務所総務社会教育課　TEL　0242-29-5488
○南会津教育事務所総務社会教育課　TEL　0241-62-5363
○相双教育事務所総務社会教育課　TEL　0244-26-1315
○いわき教育事務所総務社会教育課　TEL　0246-24-6144

お役立ち情報

○福島県教育庁社会教育課ホームページ
○福島県内各教育事務所総務社会教育課ホームページ
○「地域と学校の連携・協働のために」vol 7　（福島県教育委員会）
○「地域連携全体計画　地域連携年間活動計画」（福島県教育委員会）
○「福島県地域学校活性化推進構想」　（福島県教育委員会）
○「学校と地域でつくる学びの未来」　（文部科学省ホームページ）

地域連携担当教職員ガイドブック

　このガイドブックは、「地域連携担当教職員」が、地域の教育力を生かした教育活動をより充実させていくためのガイドブックです。
　「地域連携担当教職員って何？」「今なにをすればいいの？」
　そんな時、このガイドブックを開き、それぞれの学校や地域の実態に応じてご活用ください。

地域連携担当教職員の役割



相双教育事務所

地域連携担当教職員の１年間

地域連携担当教職員が中心となって、地域学校協働活動の「調整、連絡・情報収集、充実」にあたり、活動を効率的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を推進しましょう。

研修主任等と連携し、年間の研修計画に地域との連携・協働活動に関する研修を位置づけましょう。

【内容例】
- ○地域学校協働活動推進の経緯や意義
- ○推進のための体制づくり
- ○各学年のニーズ確認、活動づくり　等

【方法例】
- ○講話　○ブレインストーミング
- ○ロールプレイング　○事例研究
- ○研究授業　○付箋紙の活用
- ○実習・見学・フィールドワーク　等



研修の企画・運営

学校と地域の相互の情報を共有するために、年間を通して効果的に進めることができるよう、時期や対象、方法等に応じた情報を収集し、活動の計画や活動の様子を発信しましょう。

【情報発信の方法や機会の例】
- ○学校のHP　○一斉メール　○おたより
- ○授業参観　○懇談会　○学校行事
- ○回覧板　○行政HP　○PTA総会
- ○ふくしま教育週間　○広報誌
- ○自治会等の会議や行事
- ○中学校区での研修会や会議
- ○公民館等でのチラシ配布　等



情報収集と発信

地域との連携・協働をより充実させるためにも、その成果を評価し、その結果をコーディネーターやボランティアと共有しましょう。カリキュラム・マネジメントの観点からも、活動がどれだけ児童生徒の学習活動に効果があったのか評価していくことが求められます。

【評価の目的】
- ○活動の効果を見る　○取組の改善を図る
- ○意欲を喚起する　○組織の活性化を図る

【評価対象例】
- ○児童生徒　○教職員　○保護者
- ○ボランティア　○地域住民　等

【評価方法例】
- ○話し合い・感想　○アンケート
- ○活動の観察　○聞き取り　等



計画や活動についての評価

月	活動内容
4	計画等の確認・共通理解 地域連携担当教職員や地域学校協働推進委員会の役割・業務に関する話し合い・ニーズの確認
5	地域学校協働活動に関わる校内研修の企画・運営 児童生徒等の実態把握調査
6	地域学校協働活動のための各種様式等の準備
7	情報提供や活動への支援及び活動の参観と振り返り**（通年）**
8	研修会への参加と研修内容の伝達**（通年）**
9	
１０	活動実践とその振り返り**（通年）**
１１	
１２	
1	学校評価の実施と検証 児童生徒等の変容把握調査
2	今年度の成果と課題のまとめ 各学年のニーズ調査
3	次年度へ向けた計画等の作成 取組実践の記録と累積 業務マニュアルの作成・改善

「地域連携全体計画」「地域連携年間活動計画」「校外学習実施案等様式集」「地域と学校の連携・協働のてびき」などは、県社会教育課HPからダウンロードできます。

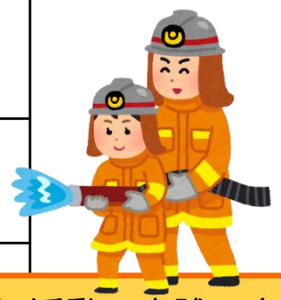


連絡調整

各教育事務所や市町村教育委員会、関係団体やボランティア、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）との連絡調整をしましょう。

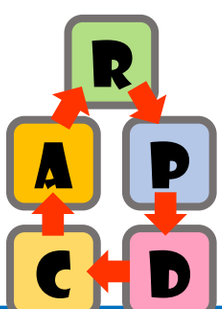
【連携・協働先の例】
- ○公民館・生涯学習センター　○自治会
- ○青少年健全育成団体　○育成会
- ○スポーツ少年団　○婦人会
- ○社会教育施設
- ○近隣の幼・保・小・中・高・特別支援学校の地域連携担当教職員　等

※打ち合わせや実施案などの各種様式を事前に準備しておくと、活動もスムーズです。



活動の実践・支援

チーム機能を生かし、自分の担当学年や教科・領域等で、これまでの実践を踏まえて授業や活動を実践したり、他学年の授業や活動について支援したりしましょう。



計画の作成及び改善

＜現状把握と分析、課題の明確化＞
各校の現状にあった計画を作成するために、学校教育目標、各教科等の目標、児童生徒・保護者・地域等の実態や願いを把握しましょう。また、裏表紙の**「チェックシート」**活用し、計画や組織、活動における自校の課題を明確にし、チーム機能を生かして、長期・中期・短期的スパンでの課題解決を目指しましょう。

＜計画の作成＞
教育目標を具現化するため、学校全体として地域学校協働活動にどのように取り組んでいくかを示した「地域連携全体計画」や、一年間でどのような連携・協働活動を行うかをまとめた「地域連携年間活動計画」の作成・改善を進めましょう。

地域連携担当教職員

地域連携担当教職員の位置付けと効果

　地域連携担当教職員を学校側の窓口として任命することにより情報が一元化され、地域学校協働活動の取組の共有化、継続化、組織化、体系化が期待できます。

　なお、地域連携担当教職員は、原則校長及び副校長、教頭でない者の中から、社会教育主事有資格者のうち、所属校の校長が当該学校の教職員から任命し、校務分掌に位置付けるものとします。ただし、学校の状況により、要件を満たす者を任命できない場合には前記にかかわらず教頭も含めた教職員を任命することができます。

地域連携担当教職員の１年間

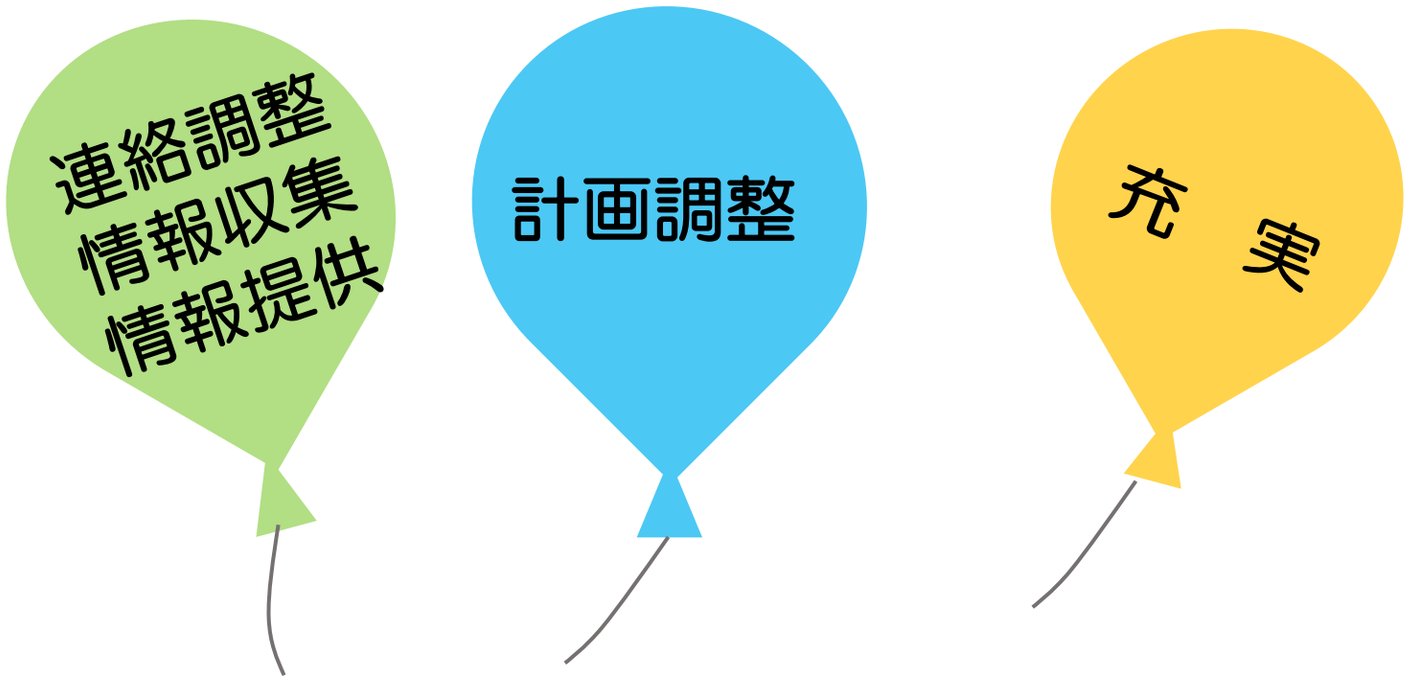
地域連携担当教職員が中心となって、地域学校協働活動の「調整、連絡・情報収集、充実」にあたり、活動を効率的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を推進しましょう。

４月

計画等の確認・共通理解
地域連携担当教職員や地域学校協働推進委員会の役割・業務に関する話し合い・ニーズの確認

地域と学校が連携・協働して行う取組の





5月

・地域学校協働活動に関わる校内研修の企画・運営
・児童生徒等の実態把握調査

研修の企画・運営

研修主任等と連携し、年間の研修計画に地域との連携・協働活動に関する研修を位置づけましょう。

【内容例】

○地域学校協働活動推進の経緯や意義
○推進のための体制づくり
○各学年のニーズ確認、活動づくり　等



【方法例】

○講話　○ブレインストーミング
○ロールプレイング　○事例研究
○研究授業　○付箋紙の活用
○実習・見学・フィールドワーク　等

6月

・地域学校協働活動のための各種様式等の準備

連絡調整

各教育事務所や市町村教育委員会、関係団体やボランティア、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）との連絡調整をしましょう。

【連携・協働先の例】

○公民館・生涯学習センター　○自治会
○青少年健全育成団体　○育成会
○スポーツ少年団　○婦人会
○社会教育施設
○近隣の幼・保・小・中・高・
　特別支援学校の地域連携担当教職員　等



※打ち合わせや実施案などの各種様式を事前に準備しておくと、活動もスムーズです。

７月～　（通年）

・情報提供や活動への支援及び活動の参観と振り返り

情報収集と発信

　学校と地域の相互の情報を共有するために、年間を通して効果的に進めることができるよう、時期や対象、方法等に応じた情報を収集し、活動の計画や活動の様子を発信しましょう。

【情報発信の方法や機会の例】

○学校のHP　○一斉メール　○おたより
○授業参観　○懇談会　○学校行事
○回覧板　○行政HP　○PTA総会
○ふくしま教育週間　○広報誌
○自治会等の会議や行事
○中学校区での研修会や会議
○公民館等でのチラシ配布　等



１０月～（通年）
・活動実践とその振り返り

活動の実践・支援

チーム機能を生かし、自分の担当学年や教科・領域等で、これまでの実践を踏まえて授業や活動を実践したり、他学年の授業や活動について支援したりしましょう。



１月

・学校評価の実施と検証　児童生徒等の変容把握調査

計画や活動についての評価

　地域との連携・協働をより充実させるためにも、その成果を評価し、その結果をコーディネーターやボランティアと共有しましょう。カリキュラム・マネジメントの観点からも、活動がどれだけ児童生徒の学習活動に効果があったのか評価していくことが求められます。

【評価の目的】

○活動の効果を見る　○取組の改善を図る
○意欲を喚起する　　○組織の活性化を図る

【評価対象例】

○児童生徒　　○教職員　　○保護者
○ボランティア　○地域住民　　等

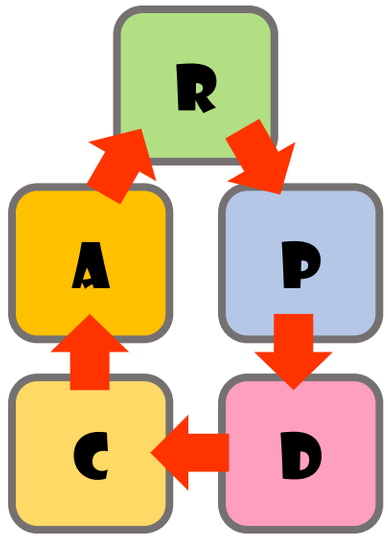
【評価方法例】

○話し合い・感想　○アンケート
○活動の観察　　○聞き取り　等



３月

・次年度へ向けた計画等の作成取組実践の記録と累積
業務マニュアルの作成・改善



計画の作成及び改善

＜現状把握と分析、課題の明確化＞

　各校の現状にあった計画を作成するために、学校教育目標、各教科等の目標、児童生徒・保護者・地域等の実態や願いを把握しましょう。また、**「チェックシート」**を活用し、計画や組織、活動における自校の課題を明確にし、チーム機能を生かして、長期・中期・短期的スパンでの課題解決を目指しましょう。

＜計画の作成＞

　教育目標を具現化するため、学校全体として地域学校協働活動にどのように取り組んでいくかを示した「地域連携全体計画」や、一年間でどのような連携・協働活動を行うかをまとめた「地域連携年間活動計画」の作成・改善を進めましょう。

	チェック項目	✓
①	地域連携協働活動の全体計画が作成されている。	
②	教職員が地域連携協働活動の意義や内容について共通理解が図られている。	
③	教職員のニーズを把握し、年間活動計画が作成されている。	
④	地域コーディネーターとの話し合いや情報共有がなされている。	
⑤	チーム体制や活動環境（ボランティア室等）が整備されている。	
⑥	明確な目標のもと効果的な学習方法が展開されている。	
⑦	活動を評価し、その成果を確認し改善を加えている。	
⑧	活動の状況が地域や保護者に発信されている。	
⑨	計画書や報告書、人材リスト等、次年度につながる資料が累積されている。	
⑩	活動を通し、めざす子ども像に近づき地域住民のつながりが生まれている。	